第21回　令和４年度

遺跡調査報告会

令和４年 11 月 12日 土　　午後２：00 ～３：30

展示・報告遺跡

◆一王寺（いちおうじ）遺跡　（是川地区／縄文）　報告者　宇庭　瑞穂

◆松ヶ崎（まつがさき）遺跡　（大館地区／縄文）　報告者　宇庭　瑞穂

◆笹ノ沢（ささのさわ）(6)遺跡　（上長地区／奈良）　報告者　上ノ山　拓己

◆八戸城跡（はちのへじょう）　（三八城地区／江戸）　報告者　山田　貴博

作業風景(一王寺遺跡)

作業風景(松ヶ崎遺跡)

八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館

〒031-0023　青森県八戸市是川字横山１
TEL 0178-38-9511　FAX 0178-96-5392
https://www.korekawa-jomon.jp/

◆会場：是川縄文館１階 体験交流室

◆主催：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

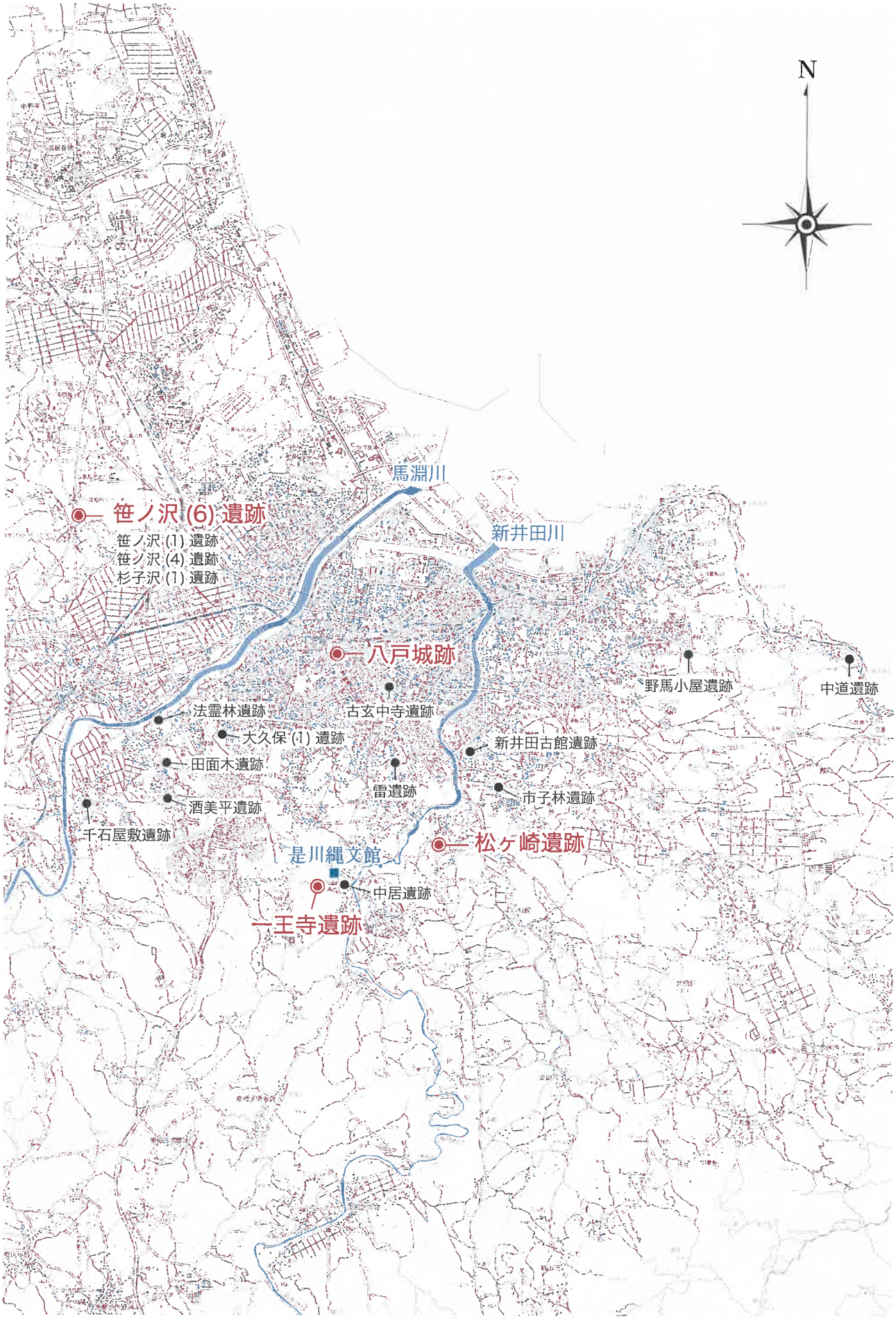
令和４年度発掘調査遺跡一覧

	No	遺跡名	時代／種類	所在地	調査原因	調査面積（㎡）	調査期間
試掘調査	1	新井田古館遺跡①	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	大館	分譲住宅建築	8	令和４年４月６日
	2	新井田古館遺跡②	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	大館	分譲住宅建築	6	令和４年４月６日
	3	雷遺跡①（隣接地）	縄文・奈良・平安・近世／散布地・集落跡	吹上	個人住宅建築	13	令和４年４月７日
	4	野馬小屋遺跡	縄文・弥生／散布地	白銀	太陽光発電設備工事	64	令和４年４月11・12日
	5	千石屋敷遺跡①（隣接地）	縄文・中世・近世／集落跡	館	個人住宅建築	6	令和４年４月12日
	6	中道遺跡	縄文／遺物包含地	鮫	個人住宅建築	12	令和４年４月14日
	7	田面木遺跡①（隣接地）	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	田面木	切土造成	21	令和４年４月12～14・19日
	8	田面木遺跡②	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	田面木	擁壁築造	20	令和４年４月20日
	9	大久保（1）遺跡	縄文／散布地	根城	個人住宅建築	13	令和４年４月25日
	10	新井田古館遺跡③	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	大館	個人住宅建築	12	令和４年４月18日
	11	古玄中寺遺跡	縄文／散布地	柏崎	個人住宅建築	8	令和４年５月９日
	12	雷遺跡②	縄文・奈良・平安・近世／散布地・集落跡	吹上	宅地造成	584	令和４年５月９日～６月16日
	13	法霊林遺跡（隣接地）	縄文・奈良・平安／集落跡	田面木	個人住宅建築	6	令和４年６月23日
	14	酒美平遺跡	縄文・飛鳥・奈良／集落跡	田面木	個人住宅建築	12	令和４年７月21日
	15	新井田古館遺跡④	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	大館	個人住宅建築	17	令和４年８月22～24日
	16	市子林遺跡①	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世／集落跡	大館	宅地造成工事	5	令和４年８月25日
	17	田面木遺跡③	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	田面木	個人住宅建築	24	令和４年８月23日
	18	市子林遺跡②	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世／集落跡	大館	個人住宅建築	5	令和４年８月25日
	19	新井田古館遺跡⑤	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	大館	個人住宅建築	1	令和４年10月18日
確認調査	20	一王寺遺跡	縄文・弥生・奈良・平安・近世／集落跡	是川	史跡内容確認調査	340	令和４年５月６日～８月８日
	21	中居遺跡	縄文・弥生／集落跡	是川	史跡内容確認調査	250	令和４年８月23日～８月30日
本発掘調査	22	千石屋敷遺跡第９地点	縄文・中世・近世／集落跡	館	個人住宅建築	70	令和４年５月17日～５月30日
	23	酒美平遺跡20地点	縄文・飛鳥・奈良／集落跡	田面木	個人住宅建築	20	令和４年８月４日～８月９日
	24	八戸城跡第54地点	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近世・近代／城館跡	三八城	道路改良工事	480	令和４年９月１日～10月31日
	25	新井田古館遺跡第33地点	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	大館	個人住宅建築	53.3	令和４年９月12日～21日
	26	松ヶ崎遺跡第11地点	縄文・奈良・平安／集落跡・貝塚	大館	長芋作付け	2,200	令和４年６月９日～11月30日（予定）
	27	笹ノ沢(1)遺跡	縄文・平安／散布地	上長	工業団地造成	7,135	令和４年４月４日～８月１日
	28	杉子沢(1)遺跡	縄文・平安／集落跡	上長	工業団地造成	7,662	令和４年４月４日～８月１日
	29	笹ノ沢(6)遺跡第１地点	縄文・奈良・平安／集落跡	上長	工業団地造成	1,190	令和４年６月６日～９月６日
	30	笹ノ沢(6)遺跡第２地点	縄文・奈良・平安／集落跡	上長	工業団地造成	2,879	令和４年６月１日～11月10日
	31	笹ノ沢(4)遺跡	縄文・奈良・平安／集落跡	上長	工業団地造成	7,500	令和４年８月22日～11月30日（予定）

□ 報告遺跡

※10月末日現在

令和４年度発掘調査遺跡位置図



一王寺遺跡

1．遺跡の概要

本遺跡は、中居遺跡・堀田遺跡を含む「史跡是川石器時代遺跡」の一つで、面積は約32万6千㎡と、3遺跡の中で最も広い遺跡です。新井田川左岸に面する、標高20～40ｍの緩やかな傾斜地から標高100ｍ前後の丘陵に立地しています。

これまでの調査により、縄文時代前期後半～中期中葉（約5,900～4,300年前）の円筒土器文化期を中心とした大きな集落（ムラ）が遺跡南側に広がることがわかっています。緩斜面の標高の低い場所には竪穴建物跡などが分布し、寺ノ沢に近い南側斜面には大規模な盛土遺構が、西側の丘陵部の周辺には集石遺構や土坑墓、貯蔵穴であるフラスコ状土坑などを確認しています。

八戸市教育委員会では、平成6（1994）年から断続的に調査を行ってきました。今後の史跡整備に向けて、令和元（2019）年から史跡指定地を中心に、内容確認のための発掘調査を行っています。今年は調査4年目にあたり、丘陵に近い西側の斜面と寺ノ沢に近い南側の斜面の遺構分布を知るため、約7,600㎡を対象にトレンチ調査を行いました。

2．検出遺構

今回の調査では、縄文時代の竪穴建物跡21棟・土坑22基（うちフラスコ状土坑4基）、時期不明の竪穴建物跡1棟・掘立柱建物跡1棟・土坑16基・溝跡1条・性格不明遺構6基などを確認しています。また、遺物を多量に含む盛土遺構を5か所のトレンチで確認しました。

寺ノ沢に近い南側斜面では、遺物を多量に含む盛土遺構を広い範囲で確認しました。縄文時代前期中葉から中期中葉の遺物が重なって出土しており、今年度の盛土遺構も、昨年度と同様に炭化物や焼土、動物骨（イノシシなど）などを含む人為的な堆積土が層状に重なっていることがわかりました。また、盛土遺構の周辺では、盛土遺構とほぼ同時期の竪穴建物跡もみつかっています。

丘陵に近い斜面では、北西側で縄文時代中期の竪穴建物跡やフラスコ状土坑、南西側で縄文時代前期中葉のフラスコ状土坑や縄文時代後期の竪穴建物跡などを確認しました。

3．出土遺物

今回の調査では、縄文土器（前・中・後期）を中心に、石器（石鏃・石匙・石錘・石斧・磨石・敲石など）、石製品（石刀など）などが出土しました。その中でも、縄文時代前期中葉から中期中葉ごろの円筒式土器や、石錘（未成品を含む）が特に多く出土しています。

4．まとめ

これまでの調査成果によって、一王寺遺跡南側の各時期の土地利用の移り変わりが少しずつわかってきました。緩やかな斜面地は、縄文時代前期中葉から後期前葉ごろに、竪穴建物跡や掘立柱建物跡などを建てる空間として使われていたと考えられます。

また、竪穴建物跡などの分布範囲の北側と南側は、本来くぼんだ地形であったことがこれまでの調査でわかっています。このくぼ地では盛土遺構を確認しており、縄文時代前期中葉から中期中葉ごろまで遺物や土砂が投げ込まれていたことがわかりました。

（宇庭　瑞穂）

遺構分布範囲模式図（縄文時代前期～後期）

竪穴建物跡の範囲　土坑の範囲

盛土遺構の範囲

寺ノ沢側の盛土遺構　遺物出土状況（西から）
炭化物などを含む人為的な堆積土の中から、多量の縄文土器が重なった状態で出土しました。

松ヶ崎遺跡

1．遺跡の概要

本遺跡は八戸市中心部から南東約4kmに位置し、新井田川とその支流の松館川に挟まれた標高約27～45mの台地上に立地しています。これまでの調査で縄文時代の遺構が多数みつかっており、なかでも縄文時代中期を中心とした大規模な集落跡であることがわかっています。

現在発掘調査中の第11地点は、遺跡のほぼ中心に位置しています。長芋作付けに先立ち、令和元(2019)年から6か年の予定で発掘調査を行っています。今年は調査4年目にあたり、調査区の南西側約2,200㎡を調査中です。

2．検出遺構

第11地点では、これまでに縄文時代の竪穴建物跡32棟・掘立柱建物跡3棟・土坑42基（うち墓の可能性のあるものを含む土坑墓23基、フラスコ状土坑9基）・溝状土坑1基・盛土遺構2か所、古代の竪穴建物跡4棟・土坑2基、時期不明の土坑23基などを確認しています。

縄文時代の竪穴建物跡は、調査区の西側に集中してみつかっています。竪穴建物跡の時期は縄文時代中期中葉の円筒上層d式期が主体で、規模は長辺約1．6～5．5mまであり、直径2m未満の小型のものが多いです。竪穴建物の中には、火事などで焼けた痕跡のあるものも複数みつかっています（SI77a竪穴建物跡など）。

また、調査区西側の広い範囲で、多量の遺物を含む盛土遺構がみつかりました。現在わかっている規模は東西約28m×南北約38mで、時期は縄文時代中期中葉の円筒上層d式期からe式期ごろとみられます。盛土遺構からは縄文土器や石器のほかに、土偶や石棒などの祭祀関係の遺物や、獣骨や炭化材、炭化種子なども出土しており、こうした遺物が土砂とともに投げ込まれたと考えられます。

3．出土遺物

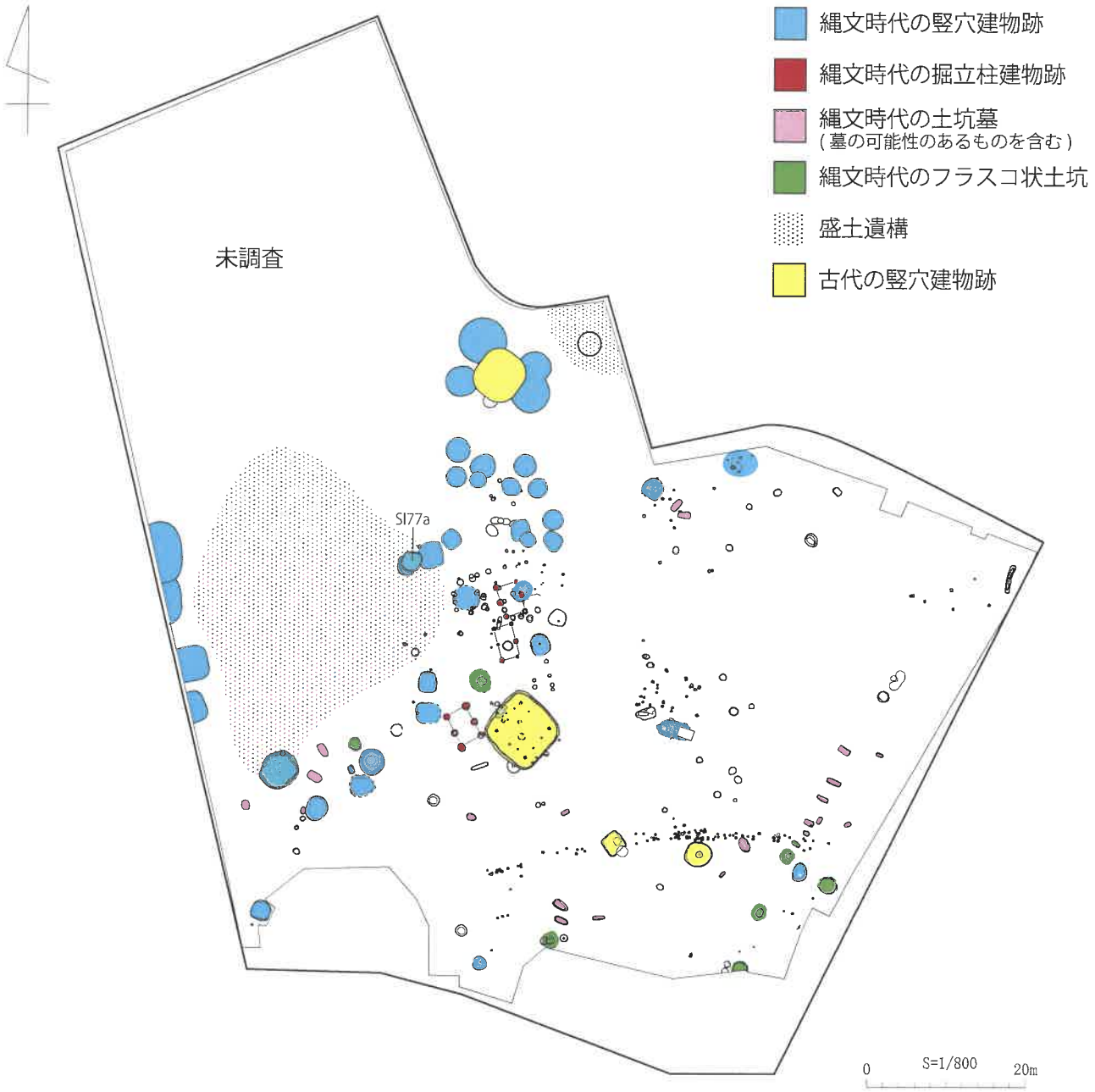
令和4(2022)年までに、縄文土器（中期中葉～後葉）、土製品（土偶など）、石器（石鏃・石槍・石匙・石錘・石斧・敲石・石皿など）、石製品（石棒など）、土師器（坏・甕など）、炭化種子（クルミなど）、獣骨（イノシシなど）などが出土しています。特に多く出土しているのは、縄文時代中期中葉の円筒上層d式からe式期の土器で、盛土遺構から多数出土しています。

4．まとめ

令和4年までの調査によって、第11地点における縄文時代中期中葉ごろの集落の様子が少しずつわかってきました。調査区西側に竪穴建物跡や掘立柱建物跡が分布し、東側にはフラスコ状土坑などが分布しています。重複する竪穴建物跡も複数あることから、同時に存在していたのではなく、何世代かにわたってこの場所に集落が営まれたと考えられます。

西側では盛土遺構が広い範囲でみつかっています。周辺の竪穴建物跡の出土遺物と比較すると、盛土遺構の遺物はやや時期が新しいことがわかりました。また、盛土遺構の下からも竪穴建物跡が何棟かみつかっていることから、周辺の集落の人びとが竪穴建物などの廃絶後のくぼ地を利用し、盛土遺構を形成したと推測されます。盛土遺構については現在も調査中ですので、今後の調査成果にご期待ください。

（宇庭　瑞穂）



松ヶ崎遺跡第 11 地点遺構配置図

SI77a 焼失竪穴建物跡（東から）

盛土遺構近景（南東から）

笹ノ沢（6）遺跡

1．遺跡の概要

笹ノ沢（6）遺跡は、八戸市中心部から北西約5．5㎞の、浅水川と五戸川に挟まれた標高70ｍ前後の丘陵に立地し、馬淵川へと合流する沢頭の周辺に位置しています。八戸北インター第2工業団地の開発に先立ち、平成30(2018) 年から令和3 (2021) 年まで埋蔵文化財の有無を確認するための調査を予定地内で行い、その結果新たに2ヶ所の遺跡を発見することができました。この一つが昨年度調査を実施した平（2）遺跡、もう一つがこの笹ノ沢（6）遺跡です。

2．検出遺構

今回の調査では、竪穴建物跡16棟、土坑10基、溝状土坑5基などを確認しました。

（1）竪穴建物跡（縄文時代）

遺跡の調査区西側でみつかりました。縄文時代早期の1棟(SI17竪穴建物跡)は、約3ｍの楕円形です。また、壁際に柱を立てた穴がみつかりましたが、炉跡は確認されませんでした。縄文時代後期の竪穴建物跡（SI18竪穴建物跡）は、直径約3ｍの円形で建物中央に炉跡が確認されました。

（2）竪穴建物跡（奈良・平安時代）

12棟が奈良時代、2棟が平安時代のものとみられます。奈良時代の竪穴建物跡は、一辺3～6ｍの方形で、北側の壁の中央にカマドが設けられています。平安時代の竪穴建物跡は、一辺3～4ｍの方形で、東側の壁にカマドが設けられています。

今回の大きな成果は、奈良時代のカマドがほぼ完全な形で確認されたことです（SI4竪穴建物跡）。カマドの規模は、高さ45cm・幅60cm・奥行き40㎝で、煮炊きをするための穴が開いており、正面に火を焚く部分が作られています。また、カマド付近の壁に粘土を貼り付けていることがわかりました。さらに、カマドを作る際に石や土師器を芯材として粘土を積み上げている様子もわかりました。

3．出土遺物

今回の調査では、縄文土器（早期・後期）、土師器（奈良・平安）、須恵器、石器（石鏃・石匙・磨製石斧）、土製品、石製品（勾玉）、鉄製品（刀子、鋤先、鎌）、銅製品、鉄滓などが出土しました。

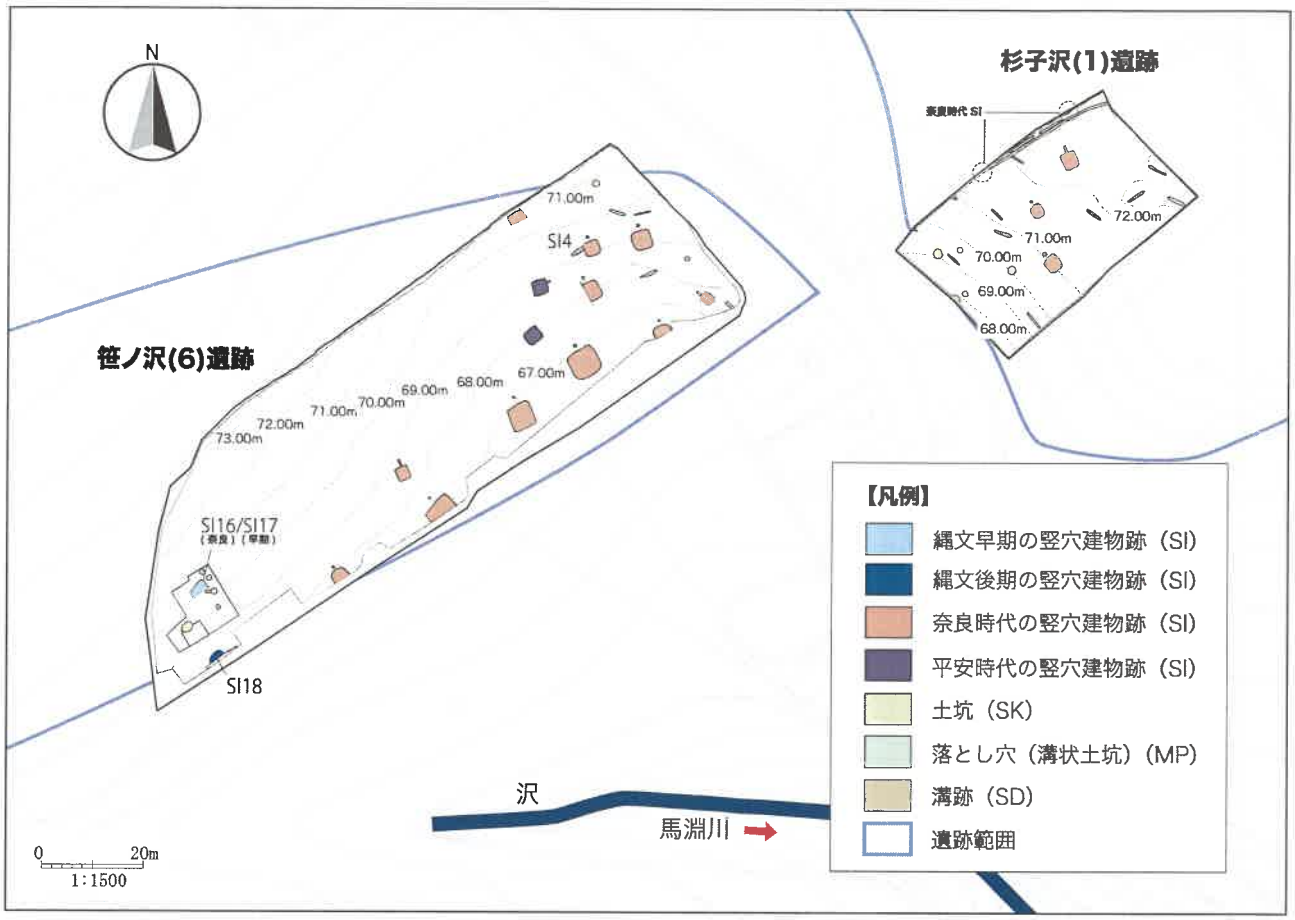
特に鉄製品は、鋤先や鎌など農耕に関わる道具がみつかっています。また、鉄滓は平安時代の竪穴建物跡の埋め土からみつかっています。

4．まとめ

調査の結果、遺跡は①縄文時代早期→②縄文時代後期→③奈良時代→④平安時代と断続的に人が暮らしていたことがわかりました。

特に、奈良時代は12棟の竪穴建物が存在し、東側に隣接する杉子沢（1）遺跡でも5棟の竪穴建物跡を確認したことから、遺跡名は異なりますが一連の奈良時代の集落であったと考えられます。また、奈良時代の鋤先や鎌など農耕に関わる道具が出土していることから、農耕を生業とする人びとが暮らしていたと考えられます。今回の調査を通じて、古代の馬淵川北岸地域の様子を垣間見ることができました。

（上ノ山　拓己）



笹ノ沢（6）遺跡遺構配置図

笹ノ沢（6）遺跡遠景（矢印の部分）

奈良時代の集落跡

奈良時代の竪穴建物跡（SI4）

カマドの断面（SI4）

はちのへじょうあと
八戸城跡

1. 遺跡概要

本遺跡は、馬淵川右岸の沖積低地に突き出た標高約 20 mの段丘北縁に立地しています。現況は、西側に八戸市庁・八戸市公会堂などの公共施設があり、東側は宅地化されています。江戸時代の城跡の他に、縄文時代から平安時代の遺構・遺物も確認される複合遺跡です。本調査は、内丸通舗装打換工事に伴う発掘調査で、令和４年９月１日から 10 月 26 日まで、約 480 ㎡の範囲を調査しました。

八戸城は、盛岡藩主南部利直の時代に築城されたと伝えられています。寛文４（1664）年、八戸藩成立後は藩主の居城として定められ、明治４（1871）年の廃藩置県の後に廃城となるまで、八戸藩主の居城・藩庁として機能したとされています。

現在の三八城（みやぎ）神社、三八城（みやぎ）公園敷地を中心とする本丸、八戸市公会堂から南部会館、霾（おがみ）神社等がある二の丸から構成されていました。本丸は、東西約 150 m、南北約 200 mで四方を土塁（どるい）と堀に囲まれており、南東側に大手御門、北東側に裏御門があったとされています。

2. 検出遺構と出土遺物

・塀・柵跡　４条

穴を掘って柱を立ててつくられたものと、断面形が箱形の溝状のものがみつかりました。SA12、13 は第 19 地点で検出したものと連続すると考えられます。SA12 は柱の跡が約１m 50cm 間隔で均等に並び、控え柱とみられる柱穴もみつかりました。SA13 は第 19 地点において覆土中から柱の跡がみつかっています。これらのことから塀跡と考えられます。

・溝跡　３条

塀跡 SA12 より新しい性格不明の溝跡１条（SD85）、塀の跡の可能性も考えられる溝跡２条（SD86、87）、古代以降と考えられるもの（SD88）がみつかりました。

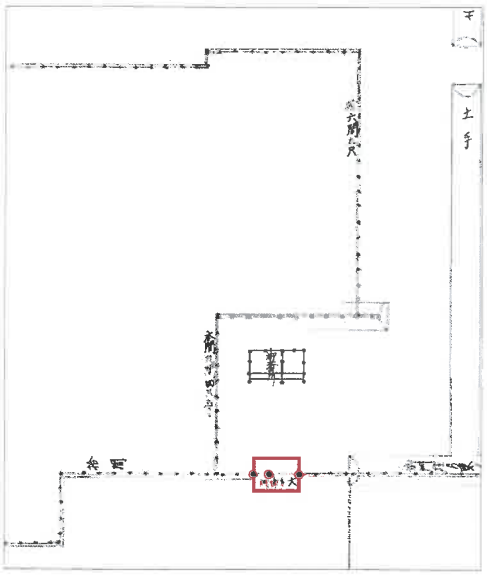
・門跡　１基

幅２m、長さ７mの溝と柱穴からなる掘立柱の門と考えられます。溝からは、柱を支えるための礎盤（根石）がみつかりました。現地表面より深さ約 160cm のところに石が置かれており、石の中心に柱を立てたと考えると門の幅は約３m 40cm あります。西側は、石から壁まで２m程度の間隔があることから、もうひとつの柱があったと推測されますが、現代のカクランにより確認することができませんでした。

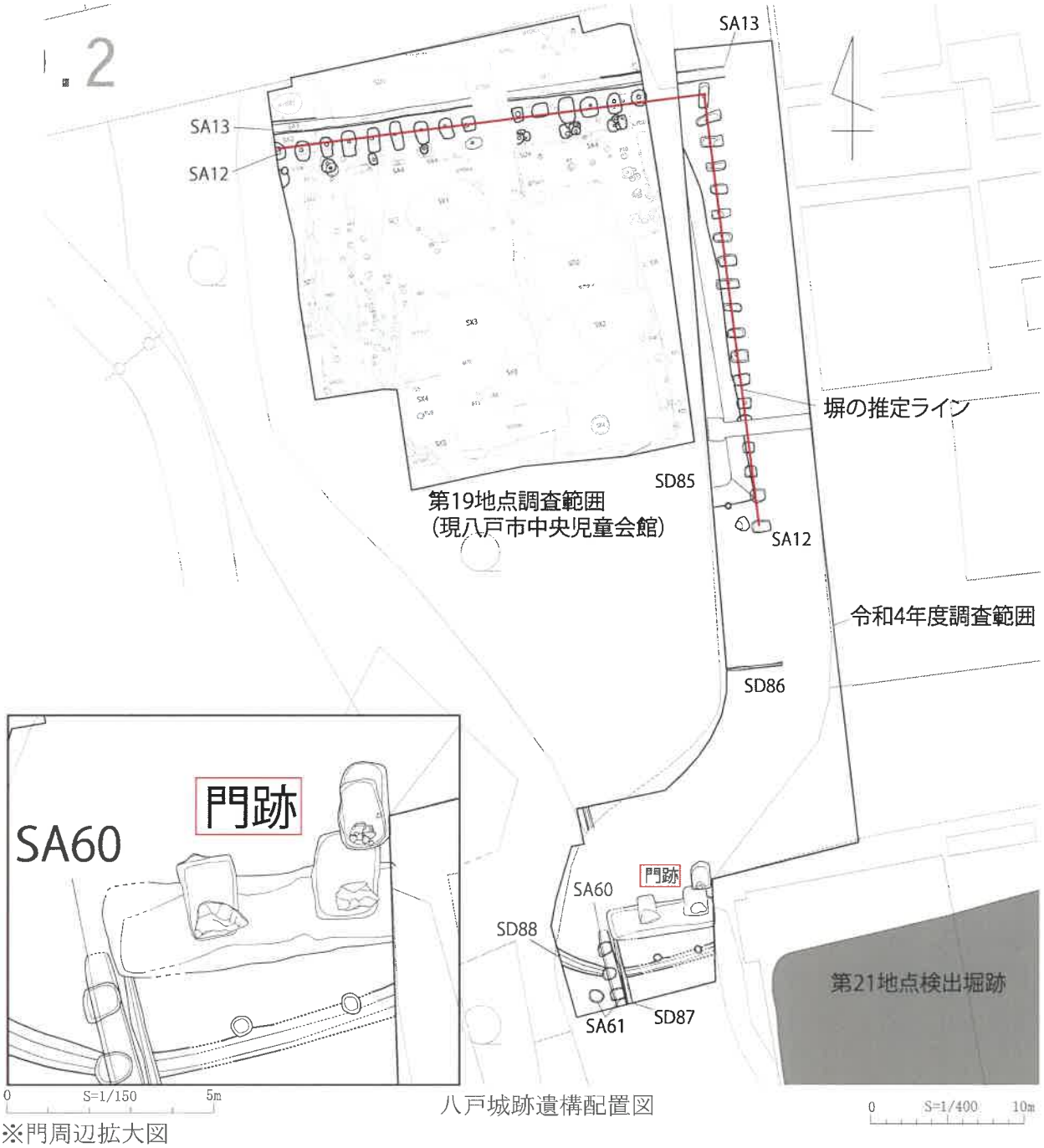
・SD85 から瓦、鉄製品、SA12、SD88 からは土師器片が出土しました。

3. まとめ

今回の調査でみつかった遺構は、絵図面等の資料から位置関係や規模を検討した結果、八戸城本丸の大手御門とその周辺の塀と考えられます。発掘成果で歴史資料の裏付けができたことは、非常に大きな成果と言えます。しかし、SD85、86 など絵図面には描かれていない遺構も確認されています。門の構造や今回みつかった遺構の時期関係など、検討すべき課題があります。　（山田　貴博）



「古御殿御絵図面」『八戸城の建築』より一部抜粋
赤線は大手御門、黒点は柱の位置

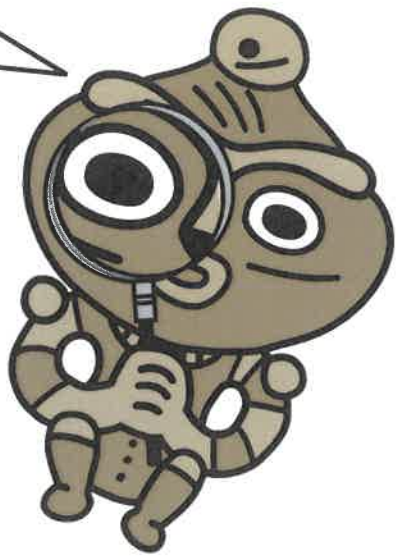


八戸城跡遺構配置図

※門周辺拡大図

塀跡確認状況（西から）

大手御門礎盤（南から）

第 21 回　八戸市遺跡調査報告会次第

9：00	出土品展示室開場	
13：30	報告会受付開始	
14：00	開会挨拶	
14：05	令和４年度調査概要	
14：10	調査成果報告	一王寺遺跡・松ヶ崎遺跡
14：40	休憩	
14：50	調査成果報告	笹ノ沢 (6) 遺跡
15：05	調査成果報告	八戸城跡
15：20	質疑応答	
15：30	閉会挨拶	
	閉場